



ご挨拶

自治医科大学
看護学部長・大学院看護学研究科長
(兼) 附属病院副病院長
水戸 美津子

看護学部の卒業生は529名になりました。そのうち本学附属病院（以下本院）に189名、さいたま医療センターに106名が就職していますので、学生たちが実習等で卒業生の指導を受ける機会が多くなりました。まだ、歴史の短い看護学部ですが、着実に積み重ねられていくものがあることを実感しております。学生たちは身近な卒業生をモデルとして勉学に励んでおります。「先生、〇病棟のA先輩、患者さんに親切だし、とっても素敵なんです！」という学生たちの感激した話を聞くと、学生だけでなく私たち教職員も元気になります。

看護学部では、実習教育（卒前教育）のほとんどを本院で行っています。学生たちが、より一層活き活きと取り組むためには卒前教育と卒後教育を一体的・体系的に行う必要があります。さらには一人ひとりが自らのキャリアパスを描けるような環境も必要となります。そのため、教育と研究の場である本院と緊密に連携をとることが重要であり、本年4月に卒前・卒後教育を一体となって取り組むことを目指して「看護職キャリア支援センター（センター長：病院長）」が開設されました。私と看護部長が副センター長となり、7名の本学部教員が本院の看護師と協働して教育プログラム開発やキャリアパスの作成、キャリア支援に関する相談等を始めました。今後、教育と看護の質の更なる向上、そして卒業生も含めた臨床研究の活性化が図られることでしょう。

ここ10年以上、新設の看護系大学・学部等の開設が続いております。しかし、本学部の入学志願者数は一定数（平均450人前後）を確保できており、学部開設9年目ですが一定の社会的評価を受けている証と考えております。学生たちは、広大な緑豊かなキャンパスで伸び伸びと学生生活を送っております。教職員一同は、今後も教育・研究の一層の充実に向けて全力を傾けたいと思います。

保護者の皆様には、心身共に健康な学生生活となるようにご支援をお願いいたします。



平成22年度新入生 入学式記念写真



入学式 新入生代表の誓いの言葉

学生生活の紹介

第1部では、学生生活についてご紹介します。各学年の近況報告に続き、課外活動として、学生自治組織である看護学部学生自治会と看護学生寮自治会の紹介に続き、今年度は弓道部と合唱団カンタービレの活動をご紹介します。平成22年度のスケジュールとともに、国家試験の結果と卒業生の進路については、過去3年間のデータをお届けします。

各学年の近況報告

看護師を目指して

看護学部1年 小林 佳奈

満開の桜の花に迎えられて自治医科大学に入学してから早いもので3カ月が経とうとしています。初めて経験する90分の授業は、最後まで集中できるだろうか、聞き漏らしをしないだろうかと不安な部分もありましたが、人体の構造や機能について学ぶことや、グループワークでの資料作成やレポート、看護についてのセミナーなど、どの授業も興味深く、毎回新しい知識を得ることはとても新鮮で学ぶことの楽しさを知りそれまでの不安を感じさせなくなりました。特に授業時の意見交換では、グループ内の学生一人ひとりの意見を聞くことで自分の考えを広げたり、新しい考え方を見出したりと、日を追うごとに看護学への考えが濃くなっていることを実感しています。

また、寮ではその日の講義について友人と意見交換したり、未来の看護師像を語りあったりと互いに良い刺激を受けながら充実した生活を送っています。窓越しに見える自習室で夜遅くまで明かりが灯り勉学に励む先輩の姿を拝見すると、私も頑張らなければ！と自分を奮起させています。

今はまだ看護師になるためにスタートしたばかりですが、これから更に学ぶべきことが増え、演習なども始まります。困難なことがあっても同じ志を持ち各地から集まった仲間と激励し、共に頑張っていきたいです。そして、研究熱心で学生思いの先生や、私たちの模範となって引っ張ってくださる先輩との出会いと、恵まれた環境で勉学に励行できることに感謝してこの四年間は目指す道のために充実した大学生活にしていきたいです。



5月27日新入生歓迎バーベキュー大会高久学長とともに

一年間の様々な体験を通して

看護学部2年 山口 和輝

入学して一年が過ぎ、あっという間に大学生生活の4分の1が終わりました。この一年間で体験した様々な事はこれからの学生生活に大いに活かしていけるものであったと思います。

入学当時は大学のシステムや講義に慣れるのが精一杯で、「看護」について十分に理解が出来ないことが悩みでした。また男子学生が少なく教室の雰囲気になじめない日々が続いていました。しかし講義の中で看護とはなにか、そして男性ならではの見解というものが見え始めてきて、同級生とも打ちとけあえるようになっていきました。一年の夏休みには「へき地の生活と看護」研修で福島県磐梯町の医療センターに行き、初めて現場の様子や高齢者の生活の実情を学ぶことが出来ました。講義で習ったことが、実際に現地に出向くことで、より確実な知識となって身につきました。1年次後期の前半に

ある「生活の理解実習」では、各ライフステージにおける人々の生活を学びました。講義を聞いてイメージしていたことが覆されることもあり、毎日の実習に楽しみを感じていました。各世代の価値観や行動などの特徴を、体験を通して理解できました。一年の終盤になると講義も実践的内容が増え、看護を目指す者としての自覚が一層湧きました。

また私は、バドミントン部に所属していますが、部・サークル活動も学業とは独立して励んでいくべきものだと思っています。辛い練習の中で仲間と励ましあったり、切磋琢磨しながら一年間が過ぎました。先輩方との交流を通して社会性も少しずつ身につけられたと思います。

これから、2年、3年、4年と進級していき、看護師として働いていく中でそれぞれ異なる価値観をもつ患者や家族、チームを組む医療従事者と出会います。その中でどのような方に対しても適切なケアを行えるよう社会性や確かな知識を残りの三年間で会得していきたいと思っています。



『へき地の生活と看護』の学内カンファレンスにて



2年生男子学生3人組（右が山口さん）

看護を学び、得られたものを次へ

看護学部3年 船木 葵

入学してから2年間、大学という新しい環境の中で多くの人と関わってきました。将来の方向が一緒である仲間と励まし合い、時にはぶつかりながら、看護の視点や看護方法、看護としての見方などを学んできました。先生方には常に陰で支えてもらい、困ったときには最善のアドバイスをいただきました。その他、様々な人との支えにより充実した2年間を送ることができたように感じます。

昨年、日常生活援助実習が2週間ありました。初めて看護者という立場で人と接し、他者の人生の一部に関わるという重大さを学ぶことができました。受け持たせていただいた患者さんと一日を共に過ごし、清拭や食事介助など日常生活で援助を必要としている患者さんへの看護を学びました。この実習を通して、私は目的をもったコミュニケーションをすることが苦手だと感じました。お互いを知り、信頼関係を築いていくために些細な会話も必要ですが、適切な看護を行うための必要な情報を自然な会話の中で収集していくことも重要です。私にとっては必要な情報は何かを意識しながら話題を展開していくことが難しく、必要な情報を得られずに困ったこともありました。情報収集は看護を展開していくうえで基本となる部分です。目的をもったコミュニケーション方法を身につけ、よりよい看護につなげていけるようにすることが今後の課題となりました。

3年生になり、5月から臨床実習が始まりました。受け持たせていただく患者さんにとってよりよい生活を全うできるよう援助できるか不安と緊張で一杯の中で行っています。昨年の実習で明らかとなった課題を達成できるよう努め、困難にぶつかったときは仲間と試行錯誤しながら乗り越えていきたいと思っています。今まで培ってきた知識を最大限に生かしながら、臨床の場でしか学ぶことができないことを十分に身につけていきたいです。そして、今後関わる人との出会いを大切にして、自分自身も成長できるよう努力していきたいと思っています。



「小児実践看護学Ⅲ」の授業風景

様々な出会い・体験からの大切な学び

看護学部4年 熊谷 悠



看護学実習のグループメンバーと
(二列目左端が熊谷さん)

時の流れは早いもので、2007年の春に入学した私たち第6期生もこの春最上級生となりました。この3年間ともに学び、歩んできた同級生達と過ごす時間も残すところ約9か月です。

本当にあっという間の3年間でしたが、こうして振り返ってみると、様々な出会いや経験から、多くのことを学ぶことが出来たのではないかと感じます。特に臨床実習は自分にとってとても大切な経験となりました。朝早くから病棟へ行って情報収集し、何度もその日の行動計画とメモを確認・修正してその日の実習が始まり、自分が初めてのケアを実施させて頂く時は緊張して手や声が震えてしまったり、自分の無力さや未熟さを痛感し、悔しさややりきれない気持ちになったりすることもありました。実習後や休日は記録物や調べものに追われ、時間が過ぎていきました。

私は実習を通して、患者さんに必要な看護を考える時の視点が大きく変わったと思いました。それは、看護の対象となる人を現在だけではなく、過去・現在・未来という視点で捉えるということです。1・2年生の時の実習では、患者さんの疾患やそれに対する治療や看護について捉えることや、入院中の患者さんに対する看護について考えることで精一杯でした。しかし、実習を繰り返す中で、看護の対象となる人それぞれの生活環境や背景、価値観を含めた現在のその人を捉え、これからの生活を視野に入れることによって、その人に合ったその人らしい生活、また健康上の目標に向けた「個別性のある看護」について考えるようになりました。

4年生となり、現在は7月に控えた地域の保健所実習に向けての準備や、卒業研究に向けたセミナーや授業に追われる毎日を過ごしています。来年2月の国家試験に向けて、計画的に勉強を進めながら、一時一時を大切に、学生のうちにしか学べないこと、体験出来ないことをしっかりと得ていきたいです。また、これまでともに学び、遊び、支え合ってきた仲間との残り少ない日々を大切に、悔いのない9か月を過ごしたいと思います。

目標に向かって

看護学部編入生4年 森口 朋恵

自治医科大学に編入生として入学して早1年がたち、大学生活も残り1年を切ってしまいました。5人の編入生も、皆がそれぞれ思い描いた目標に向かって進んでいるところです。入学してからは、他の学年の仲間と講義を受けたり、部活動に励んだり充実した毎日を過ごして来ました。また、3年後期の



助産学演習で頑張っています
(予防衣の後ろ姿が森口さん)

フィールド実習では病院だけでなく、学校、産業、訪問看護など、地域で生活する人々と向き合ったことで、健康問題を抱えながら生活している人々の看護について考えを深めることができました。

4年生になってからは主に、保健師、助産師の勉強や卒業研究に取り組んでいます。私は現在、助産師国家試験関連科目を受講しています。授業は、先生方や外部講師の方々に組まれており、さまざまなフィールドで働いている体験談を基に講義が行われるなど興味深いものが多く、日々楽しく学ぶことができている。演習の時間は、学んだことをすぐに実践することができ、分からない部分は先生方が丁寧に指導して下さることから、疑問を解決しながら学びを深めることができます。講義

は11名で受けていますが、お互いに分からない部分を教えながら助け合い、刺激しあって学習することができるため仲間意識や結束力が高まっているように感じます。また、9月から助産学実習が始まることから、講義や演習に望む気持ちもより一層高まっています。

この1年間で、様々な人たちと出会い、関わりを持つことで考えや視野を広げる機会となり、自分自身を成長させてくれたと思います。これから実習や卒業研究、国家試験などやるべきことがたくさんあります。同じ目標を持つ仲間たちと切磋琢磨し、乗り越えていくことで残りの大学生活に悔いを残さないよう有意義に過ごして行きたいと思います。

課外活動の紹介

主体的な学生生活を送れるように

看護学部自治会長 笈川友里恵

看護学部自治会では、自治会長1名、副会長2名、会計2名、書記2名、カリキュラム委員5名、学習支援委員5名、広報・選挙管理委員3名、会計幹事3名、サークル委員3名、環境委員6名で日々活動を行っています。主な活動内容として、医学部と共同しての自治会新歓の実施や看護学部新入生を対象とした学校新歓の実施、看護学部での上級生と下級生の関係を深めるための交流会の実施、学生サロンの使い方の周知、学生サロンのコピー機管理、新入生に自転車のステッカーについて説明・配布、在校生への自転車ステッカーの再発行、医学部と合同で自治会サークルの整備などを行っています。

これらの活動を実施していくにあたり苦労していることは、自分達が一から計画を立てて行くことです。計画の立案は、前年度の計画を基に立てていきながらも、前年度同様に、また、それ以上に良いものにしていくにはどのようにすればよいか、どう改善すればよいか、どの部分は同じようにしていけばよいか模索しながら役員全員で考えながら計画していく部分は大変苦労する部分でありました。

しかし、看護学部学生がより快適なそして、看護学部生らしく勉学やその他の部活やサークルなどの活動面でも主体的に学校生活に臨めることを目的に、同学年での絆を深めるための自治会新歓や学校新歓の実施、上級生と下級生の結びつきを深めるための取り組みの活性化に努力していきました。

今後は、これまで先輩方が作り上げてきた自治会での活動を今まで以上に活発にし、看護学部生がより過ごしやすく充実した学生生活を送ることができるように努めていきたいと思っています。また、看護学部生全員が主体的に自分達の学生生活を向上・発展させようという気持ちを持てるように、自治会が看護学部の代表として活動していきたいと思っています。



看護学部自治会役員集合！
(前列左から二人目が会長)

看護学部学生寮自治会の紹介

看護学部3年生 三宅ゆかり

入学から早くも3年目を迎え、栃木に来て3度目の夏を迎えようとしています。関東の気候にもずいぶん慣れてきました。外出先から自分の寮に「帰ってきた」と表現するようになって、ずいぶん経ったのだなあと、改めて実感しています。

任期は既に終了してしまいましたが、去年は一年間寮自治会の委員長をしていました。寮自治会の仕事について知らないことが多く、初めのころは戸惑うばかりだったように思います。寮自治会是人前に

出て行く仕事が少ないので、以前の私のように、自治会について知らない人が多いのではないのでしょうか。そこで今回は、寮自治会がどのような活動を行っているのか皆さんに紹介したいと思います。

寮自治会の役職は会長を含め全部で八つあります。日々の仕事としては、寮運営費やランドリー室の管理、自習室などの共有スペースの整理などを行っています。大きなものでは洗濯機の交換、小さなものでは新聞の回収なども仕事内容に含まれています。

役職ごとに仕事に分かれているため普段は個別に仕事を行っていますが、去年からは月に一度、寮自治会の役員で会議を開くようになりました。寮生活の問題点や規則の見直しなど、よりよい寮生活が送れるよう話し合っています。会議を行うようになってから、役職ごとの仕事をそれぞれ行ないながらも独役員同士の連携が取れるようになり、より効率的に仕事をこなせるようになってきました。



看護師寮合同の防災訓練にて（6月3日）

普段の仕事の他に、年間行事の運営もいくつか行っています。4月の入寮案内と6月の避難訓練、行事ではありませんが看護学部学生委員会の先生方との懇談会も5月の半ばにありました。

役員の仕事が億劫に感じる時も多々ありましたが、自治会によって役員同士の結束が高まりましたし、寮の管理人さんや看護学務課の職員の方との交流も持てました。忙しくも充実した1年だったと思います。今年の学生寮自治会の役員の方皆さんも、力まずに、寮自治会を楽しんで運営できるよう応援しています。

合唱団カンタービレ

看護学部3年 川本 史穂

私たちカンタービレは、火曜日・木曜日の週2日、医学部寮内の音楽室で夜9時から活動しています。今年も新入生がたくさん入部してくれたので、部員は現在約50人となりました。先輩・後輩関係なしに皆仲良く、自由で和やかな雰囲気で練習していますが、定演前などやる時はしっかりやるサークルです！ほとんどの部員が他のサークルを掛け持ちしていて、それが終わった後にカンタービレの活動に参加したりと自分に合った方法で合唱に取り組んでいます。多くの部員が大学から合唱を始めた初心者なので、合唱に興味があれば気軽に入部することができると思います。“合唱が好き！”“音楽が好き！”“飲み会が好き！”こんな方にはとっても楽しいサークルだと思います。

カンタービレの主な活動は、年に2回行われる定期演奏会、松韻会、クリスマスコンサートなどの演奏会や、希望者が参加するアンサンブルコンサートなどで、日々の練習では主にその曲目の練習に取り組んでいます。そのほかにも入学式や卒業式で校歌を歌ったり合唱の依頼を受けたりして、学校行事にも積極的に参加しています。曲目は合唱曲からJ-popまで幅広く選ばれていて、聞き覚えのある曲もたくさんあると思います。



練習に集った団員一同です

合唱団カンタービレは現在の5年生の先輩方が作ったサークルで、毎年少しずつ活動を広げ、徐々に部員が増えてここまでのサークルとなりました。まだ誕生もないサークルなので、戸惑うことや上手くないこともあります。そのたび皆で話し合ったり意見を出し合ったりして、より良い形へとサークルを作り上げていっている途中です。演奏会を乗り越える度に、部員同士の絆が深まっていき、また自分自身の成長と合唱への思いが深まってこのサークルと共に成長し

ていくことを感じる事が出来ました。

今年は看護学部の後輩が初めて出来ました。これからもますますにぎやかなカンタービレになることを楽しみにしています。

弓道部

看護学部4年 小西 慶子

今年もたくさんの1年生が入り、現在、弓道部は医学部、看護学部合わせて38名というメンバー構成で、週3回を正規練習として活動しています。

自治医大弓道部では、最初は基本動作から学ぶため、実際に弓に触れるまでに少し時間がかかります。弓道は、立ち方、歩き方など全ての動作において、指先まで姿勢を意識することが大切で、それらを基盤として美しく弓が引けるようになるのです。入部した部員のほとんどが弓道初心者ですが、経験者でもきれいな姿勢を保つのはなかなか難しいようです。私も週に1度ご指導に来てくださる先生方や先輩方から姿勢や動作について色々と注意を受け、どうしたら自分の姿勢が一番きれいに見えるのか四苦八苦していました。しかし今ではバイト先でお辞儀を褒められるまでになりました。

基本動作を覚えてようやく弓に触れるようになり、実際に的前に立つようになると、今度は自分との戦いになります。なかなか中らない日々焦りを抱いたり、中りだすようになると、中りだけを意識してしまい、射形が崩れてしまったりと、毎日自分の課題が見つかります。それを一つ一つ、先生や先輩、また他の部員から、たくさんの助言をもらって、自分で乗り越えていきます。的中することも楽しみだとは思いますが、私はこの過程が本当の弓道の楽しさなのではないかと思うようになってきました。

他大学との交流試合も盛んで、今年は我が部の大会主管が多く、少し忙しい1年となりそうです。今は、夏の大きな大会である東医体・看学戦に向けて、みんな頑張ってる練習しています。

少し厳しそうなお印象をもたれたかも知れませんが、弓道部は個性的なメンバーが多く、食事や打ち上げなども部活の楽しみの一つです。部活以外の事でも互いに悩みを相談し合ったり、また一緒に喜びを分かち合える仲間に出会えた事は、私の大学生活において大きな支えです。現在私は最終学年となって引退した立場にありますが、現役部員がより楽しく弓道ができるように、これからもサポートしていきたいと思います。



“チーム自治医大” 大会記念撮影



精神統一、目指すは的！



看護学部1年 菅野 梨佳

学部長懇談会

学業や課題活動など学生生活の実際について、全学生からの生の声を聞くために、学部長と学生との懇談会を開いています。1回の懇談会につき20名前後の学生と学部長が、大学が用意した昼食を食べながら懇談します。「えらい先生と思い近づきにくかったが、親しみやすくなった」、「先生の物事の考え方が立派で、自分もしっかりした大人になろうと思った」、「大学で主体的に学ぶということがどういうことなのか少しわかった」という学生からの感想は、学部長との懇談会が、学生が自らの生活を振り返り自分の将来像を考えていくための1つの機会を提供しているといえるでしょう。



平成22年度1年生との懇談風景

平成22年度年間スケジュール

前学期

4月

- ・入学式（9日）ガイダンス
- ・春季休業（4月29日～5月5日）

5月

- ・創立記念日（14日）
- ・3年次看護学実習（7月23日まで）

6月

- ・4年次定期試験（6月30日～7月2日）

7月

- ・4年次地域看護学実習（5～30日）
- ・1・2年次定期試験（27～30日）

8月

- ・夏季休業（7月31日～9月26日）
- ・オープンキャンパス（9日・20日）
- ・へき地の生活と看護（夏季集中）

9月

- ・助産学実習（6日～10月8日 選択者）
- ・後学期授業開始（27日）

後学期

10月

- ・2年次日常生活援助実習（1～21日）
- ・学園祭（8～10日）

11月

- ・1年次「生活の理解実習」（22日～12月3日）
- ・3年次後学期実習（12月24日まで）

12月

- ・冬季休業（25日～1月3日）

1月

- ・3年次後学期実習（2月18日まで）

2月

- ・1・2年次定期試験（1月31日～3日）
- ・国家試験（看護師・保健師・助産師）

3月

- ・卒業式（4日）
- ・学年末休業（19日～）



学生だって立派に大学PR！
（オープンキャンパスにて）



薬師祭に向けて練習中！（ROUTE 4）

卒業生の動向

【進路状況】

進路の内訳		平成19年度 (第3期生)	平成20年度 (第4期生)	平成21年度 (第5期生)
就 職	自治医科大学附属病院	42名	28名	50名
	自治医科大学附属さいたま医療センター	20名	28名	10名
	その他の病院等	40名	36名	42名
進 学		4名	9名	0名
その他		3名	4名	1名
合 計		109名	105名	103名

(各卒業年度3月末日現在)

【国家試験合格率】

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
保健師	92.6 (91.1)	98.1 (97.7)	89.2 (86.6)
助産師	100.0 (98.1)	100.0 (99.9)	80.0 (83.1)
看護師	98.0 (90.3)	95.7 (89.9)	98.9 (89.5)

単位% () 内は全国の平均合格率である。

自治医科大学看護学部第5期卒業生（平成22年3月卒業）

平成22年3月5日（金）に自治医科大学看護学部第5回卒業式が挙行され、3名の学生が学長賞を受賞しました。引き続き、看護学部学習室にて、学位授与式が行われました。卒業生の皆様から記念品として小久保裕画伯の油彩画「地天女」が寄贈され、学習室に展示しております。



学長賞授与 看護学部卒業生3名



看護学学士になりました（学位伝達式）



第5期卒業生記念品贈呈式 記念撮影



平成21年度 第5期生卒業記念写真

同窓会および卒業生からのメッセージ

本誌では、同窓会長のご挨拶、および卒業生の皆様の代表2名の活躍とメッセージを掲載しました。5年目を迎えて助産師および保健師としてご活躍されている第1期卒業生をご紹介します。

自治医科大学看護学部同窓会

自治医科大学看護学部同窓会

自治医科大学附属病院 看護師
新海 里恵（第4期卒業生）



私は4期生（2008年度卒業）で、自治医科大学附属病院脳神経外科病棟で看護師をしている新海里恵と申します。2010年4月より「自治医科大学看護学部同窓会」（以下同窓会）の会長に就任しました。入学式および卒業式では保護者の皆様とお会いしますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会は、2006年4月に第1期卒業生（2005年度卒業）有志により、会員相互の親睦を図り、自治医科大学看護学部の発展に寄与することを目的に創設されました。毎年卒業生の9割以上が入会しており、目的に賛同する卒業生が多く、大変嬉しく思っています。2008年に自治医科大学看護短期大学同窓会「さくらの会」と合併し、会員数は現在500名を超えています。

同窓会の活動は、主に、連絡先等の会員情報の管理と同窓会名簿の作成（入会時等）と年一回の同窓会通信の発行です。さらに、本会の目的を達成するために認められる事業として、2009年9月に「自治医大地域医療フォーラム」において看護学部と共催して、看護フォーラム『地域医療について看護の立場から考える』を行いました。私も阿部千草前会長とともに参加し、会員13名を含む出席者と気軽に交流もでき、大変有意義でした。今年度もこの事業を継続して共催する予定です。

一方、役員が若く、各自の仕事と私生活に忙しいため、活動を発展させることが難しい現状があります。たとえば、就職2年目の会員が毎年交代して会長を引き継ぐことなどです。私は、学生時代に共に頑張った同窓生は一生の宝物であり、有意義な学生生活を支えて下さった看護学部の先生方といつまでもつながりを持ち続けたいと考えています。今年度は同窓会をさらに発展させるため、役員同士の連絡を密にしたいと考えています。近い将来会員となる在学生の皆さんにも卒業後の進路に関する情報提供などでお役に立ちたいと考えています。保護者の皆様方にも同窓会の役割と活動をご理解いただき、今後ともどうぞご支援くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

卒業生の近況

大学生生活を振り返って

自治医科大学附属病院 助産師
都倉久美子（第1期卒業生）



私は中学時代からの夢であった助産師になるため、出身県外の看護学部に入學しました。当時の私にとって、夢を叶える喜びや期待よりも、親元や地元を離れる淋しきや不安の方が大きかったことを覚えています。しかし、同じ境遇にある同年代の友人が数多くでき、はじめに感じていた不安はあっという間に解消されていきました。

笑顔で働いています 授業では初めて耳にする専門用語に悪戦苦闘しながらも、日々新たな発見に心躍

らせながら夢に近づいていることを実感していました。

また、病棟実習では、ユニフォームを着用し、実際に患者様を前にして、これまでにない緊張感を抱きました。はじめてお産の介助させていただいた経験は約5年たった今でも克明に覚えています。産声を聞いたときの感動と喜び、命の大切さや母の強さを実感し、生命誕生の場面に携わっていける助産師という職業に改めて魅力を感じました。当時の実習記録を振り返ると一生懸命に教科書と向き合い、受け持った方の変化を詳細に記録し看護方法を考えている様子を感じられ、ほほえましく思います。

学生生活のなかで友人の存在は非常に大きなものでした。大学でも寮でも時間を共にするため、家族同然の関係でした。勉強に息詰まったときには励まし合い、体調を崩したときには看病さえしてくれました。卒業後はなかなか会うことができなくなりましたが、今でも電話やメールで近況報告し、支え合い励まし合っています。大学生活を共にした友人は私にとって一生の宝物です。

卒業後、助産師として親元に近い公立富岡総合病院（群馬県）に就職し、大学に近い自治医科大学附属病院に職場を変え、5年目を迎えました。昨年1年間は、西吾妻福祉病院（群馬県）に派遣として僻地看護も経験しました。大学病院での看護とは異なり、限られたマンパワーのなか看護を提供していくことの難しさを感じましたが、どんな環境であってもお産に携わることは楽しいと実感することができました。

看護の分野は日々発見の連続です。学生時代の友人たちと学びを胸に、今後も学ぶ姿勢をもって助産師として看護にあたりたいと思います。

「たくさんの人に支えられて」

小笠原村（母島担当）保健師

野上 貴代（第1期卒業生）



釣果のマグロに大満足の休日です

私は現在、東京都小笠原村の保健師として4年目を迎えています。東京から南へ1,000kmも離れた南海の大小30ある島々の中で二つしかない有人島の一つ、母島（人口約450人）を丸ごと一人で担当しています。

大学に入学した頃は漠然と看護師になりたいと考えていましたが、実習で六合村（群馬県）、夏休みには利尻島（北海道）、春山先生のお手伝いで伊豆諸島の青ヶ島に行った体験から、僻地で保健師として働きたいと思うようになりました。

保健師になるには看護師の経験も必要と思い、卒業後は出身地の公立富岡総合病院（群馬県）に勤めました。楽しい職場でしたが、研修で知り合ったベテラン保健師さん達に「看護師経験を重ねても保健師とは仕事が違うから、本当に保健師になりたいのなら今すぐになりなさい！」と言われ、わずか1年で退職する決意をしました。「僻地の保健師になりたい！」と春山先生に話したところ、お忙しい中、何度も親身に相談のって下さいました。

一番の難関は両親の説得でした。両親は約8倍の難関を突破して得た安定した職場を辞め、出身地により近い僻地を選ばないことに大反対でした。母島唯一の常駐保健師のパイオニアになりたいと説得を重ね、ようやく私の熱意を認めてもらえ、念願がかなったのです。

私の仕事は、乳幼児健診、予防接種、介護予防事業などはもちろん、訪問看護師やヘルパーの仕事、ネズミにかじられた家の修理、硫黄島への墓参の随行、一般家庭から出る家電の回収、お葬式の祭壇の設置などがあり、色々な経験ができます。就職当初は、仕事の組み立て方、相談する人の選択など悩むことがたくさんありました。そのたびに地域看護学の先生に相談し、大学まで出かけてグチを聞いても

らったり、家族や同期生がはるばる遊びに来て、私の仕事を励ましてくれたりもしています。また、休日には釣りなど大自然を満喫しています

私は今、学生時代の経験と希望を基に、恩師はもちろん、島民の方やたくさんの人に支えられて毎日楽しく働いています。ぜひ一度、小笠原に遊びにいらしてください。そして僻地で働く保健師の面白さを知ってもらえたら嬉しいです。



船で20分の無人島『南島』で気分一新！

本看護学部教員および活動の紹介

平成22年度の本看護学部教員組織は、看護学部教員一覧にお示したように41名となりました(5月1日現在)。各教員は、授業科目の一群である「学科目」に配置されており、毎号各「学科目」をご紹介します。今号では、医学関連、基礎科学関連、精神看護学の教員と3名の新任教員をご紹介します。また、看護学部教授会運営組織のなかから、学生支援に関係が深い活動として、今号は学年担当アドバイザーの総括責任者の大塚公一郎先生に「本学部の学生の特徴と課題」についてご寄稿いただきました。

学科目および所属教員の紹介

学科目「医学関連」

教授 竹田津 文俊

医学関連科目の教員は、竹田俊明、竹田津文俊の二人です。私共の役割は、看護学に必要な医学的知識を学生諸君に提供することです。竹田先生が「人体の構造、そしてそれがどういう働きをしているか」を主に、竹田津が「病気がどのようにして起こるかそしてそれを治癒させるにどんな方法があるか」を主に教えています。学生は、将来看護師や助産師や保健師になって疾病や健康問題を抱える人と対峙するとき、まず、なぜそのようなことが起こるのか、その解消には何が必要かを理解しなければなりません。その理解のための基盤を私共が教えています。講義の内容は、竹田津に関しては、病態学概論・各論は、かなりレベルの高いものを教授しています。竹田先生の人体の構造と機能もかなり高水準かつ解りやすい講義です。

私共が担当している分野は、最近の新聞やテレビの報道でもお解りと思いますが、次々新しい事実や新しい病気が明らかになっていきます。最新の知見をわかりやすく説明しています。具体的には、幹細胞や再生医学を理解するための糸口を簡単に説明したり、新型インフルエンザウイルスの構造などのトピックなども説明しています。

私共の名前には、両方に「竹田」と「俊」の3文字があるので、学生は研究室のネームプレートをよく見間違えます。実は、二人は「恩師と教え



竹田俊明教授（左）と竹田津文俊教授（右）

子」の関係にあります。竹田津は、自治医大の卒業生で、学生時代には竹田先生の生理学の講義も受けましたが、現在は共に看護学部の教育に当たっています。

竹田先生の出身地は北海道で、竹田津は九州の大分県です。竹田先生はチェロを演奏して本学の入学式、卒業式にはオーケストラの主チェリストとして活躍しています。スポーツはテニスをしています。竹田津は、これといって特技はありません。趣味は、読書と音楽と映画鑑賞です。テレビは時代劇が大好きです。スポーツは水泳をしています。

私共の働きが、学生諸君の看護学の学習の端緒になればと希望しています。

甚だ短い紹介ですが、医学関連科目の教員紹介とさせていただきます。

学科目「基礎科学関連」

教授 渡邊 亮一

本学部が目標としている「豊かな人間性」と「広い視野」をもった看護職者となるためには、多様な学問分野にふれることにより一般教養を身につけ、多様な価値観を学び、広い視野での見識をもつ必要があります。具体的には、人間そのものや人間関係のダイナミズムを理解し、社会を含むさまざまな環境のなかで生活する人間の本質を理解することが不可欠です。基礎科学関連では、看護学を学ぶための、あるいは看護職者として仕事をしていくときの基盤となる、このような基礎科学分野の教育、特に人文社会科学系の教育を中心に担当しています。

担当している具体的な授業科目は、「哲学」「倫理学」「歴史学」「心理学」「芸術と表現」「人間関係論」「社会学」「家族社会学」「政治と国際関係論」「経済学」「文化人類学」「情報学」「統計学」「統計学演習」などですが、約半数程度の授業科目は学外の非常勤講師の先生にご担当いただいています。残り約半数の授業科目を基礎科学関連担当の2名の教員、渡邊亮一（教授）と大塚公一郎（准教授）とで分担しています。渡邊は情報・統計関係の授業科目を、大塚は哲学・心理学関係の授業科目を担当しています。

学生指導上の役割としては、現在、渡邊は国家試験対策委員会の委員長を務め、主として4年生に対する国家試験受験に関するガイダンスや相談を担当しています。また、精神科医である大塚は学年担当アドバイザーの総括責任者を務め、全学年の学生の心理的な相談等を担当しています（「本学部の学生の特徴と課題」をご参照ください）。

基礎科学関連の教員は、上述のとおり、学生の相談に応ずる機会が多く、また、時には厳しく怒るときもあるので、大学における父親のような役割を果たしているのではないかと考えています。悩みや相談したいことがあるときには、学年担当アドバイザーやカウンセラーの方にご相談いただくのが原則ですが、基礎科学関連の教員の研究室の扉はいつでも学生に開かれています。



渡邊亮一教授（左）と大塚公一郎准教授（右）

学科目「精神看護学」

教授 半澤 節子

心とからだの健康は密接に関係しています。また、人はひとりだけで生きているわけではなく、家庭、学校、職場、サークルなど多様な集団の中に身を置き、多様な人間関係の中で、喜び、悲しみ、充実感などを経験します。精神看護学では、精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護を考えます。人の精神的健康状態に影響を及ぼし合う多様な要因について検討し、心理社会的な環境要因と人の精神健康の病態との関連を考察しながら、対象者の回復過程に応じた看護援助を計画します。本学の精神看護学では、精神に障害を持つことは決して他人ごとではないという認識を重視しています。

リストラや失業といった労働環境の悪化と自殺の増加という社会現象は、こうした社会背景が精神の健康を阻害しやすいことを物語っています。しごとを失ったり配偶者が亡くなるといった対象喪失もひとつのきっかけとなるかもしれません。精神健康の不調を生じたとしても、その回復を促す援助方法を検討したり、不調を最小限にしながら生活するための支援環境づくりにはどうしたらいいのかを検討します。

精神看護学を担当する教員は、半澤節子（教授）、永井優子（教授）、野崎章子（講師）、宮田真理子（助教）、板橋直人（助教）の5名です。私たちは、精神看護学の専門科目のほかに、1年次前学期の「生



宮田助教、半澤教授、永井教授、板橋助教、野崎講師（左から）

涯発達看護論」、「援助関係論」などを担当しています。また、学年担当アドバイザーやセミナー、実習指導等をとおして、学生生活でつらい体験や出来事があっても、学生が自らの精神健康を維持し、発達を促進できるように考えて教えようと努力しています。さらに、私たちは精神科看護師などの援助専門職や精神障害者・在日外国人の方を対象とした研究活動をとおして、今日的な精神保健の話題を授業内容に取り入れたりと、演習や実習で協力いただく現場のスタッフの方々との連携体制づくりにも活かしています。

新任教員紹介

学科目「小児看護学」担当 准教授 大脇 淳子



専門分野は「小児看護学」で、アレルギー疾患などの「慢性疾患をもつ小児の療養行動」および「乳幼児期の生活習慣」に関することをテーマに研究をしています。自治医科大学の広大な敷地と緑豊かな環境と、子ども医療センターが隣接され恵まれた環境の中で、学生と共にキャンパス生活を楽しみながら小児看護を探究できることを楽しみにしております。学生の豊かな感性と豊かな創造力を支援する教育を目指したいと考えています。

学科目「母性看護学」担当 講師 小川 朋子



学生時代の恩師の導きで、看護師・助産師教育に携わるようになり、7年目を迎えました。

専門分野は「母性看護学」で研究テーマは「育児期にある女性と家族への支援」です。母親が子どもに興味を持ち大切に育てていくには、まず母親自身の心身が労られ、癒しの感覚を得ることが必要だと考えています。きめ細やかな心身のケアの必要性を、講義や実習を通して学生の皆様にお伝えしたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

学科目「成人看護学」担当 助教 松浦 利江子



はじめまして。主に実習科目の教育を担当いたします。青年期は、自己同一性を確立することが発達課題と言われる時期です。自己と向き合う作業の渦中にある学生にとって、患者という「他者」と真摯に向き合う過程には、様々な困難が伴うことと思います。一方でそれは、「他者」を介して自己を形成する契機にもなりうると考えます。その過程の伴走者として、顕在・潜在する問題に共に向き合い、学生が発達する可能性を見出していきたいと思っております。

本学部の学生と特徴と課題



学年担当アドバイザー総括責任者

准教授 大塚 公一郎

学年担当アドバイザーは、学業や人間関係の悩みなど学生生活のさまざまな問題の相談窓口となります。学生さんの自主性を尊重しながら、安心して学生生活を送ってもらうために総合的なサポートをします。

私は総括責任者として、各学年担当（各3名）の先生方と協力して、アドバイザー全員が参加する連絡会を開いたり、個々の学生から直接相談を受けたアドバイザーとサポートの方針を話しあったりします。私自身は、当大学附属病院で長年精神科医師として診療に携わってきたこともあり、容易ではない心身の問題を抱える場合に直接介入することが多く、医療機関への紹介や休学のアドバイスをすることもあります。

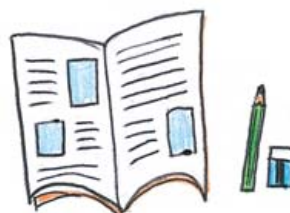
最近の大学生のモラトリアム傾向についてはすでにご存知のことと思いますが、専門職を目指して入学してくる本学部学生には、この点に関しては、むしろ、しっかりとした考えをもつ学生が多い印象を受けます。その一方で、人のお世話をする職業を選ぶというモチベーションの高さと表裏一体をなすかのような自分自身の自立と依存をめぐる葛藤に悩み、それを通して成長していく学生さんの姿を見守ることがあり、感銘を受けてきました。家族や友人などに対して、どれだけ自立していれば、あるいは、どれだけ依存していることが望ましいのかという問題は、人間にとって生涯にわたる重要な課題ですが、大学時代もこの問題が先鋭化する時期です。苦しいとき弱音を吐かず、頑張るけなげな学生さんをよく見かけます。しかし、思いもかけない心身の不調が降りかかってきたときに、うまく家族に頼ることができないと事態は深刻になってしまいます。学生さん自身は、当初、こちらが勧めても保護者が乗り出すことに同意されず困ることがありますが、事態が好転したとき、学生さんあるいは親御さんから、「母と（父と、子どもと）初めてよく話すことができました」という話を聞くことがあります。おそらく、これまでも親子の対話はあったのだと思います。それでも、「初めて」と言われるのは、お子さんが大学生になり親子がそれぞれ変わりお互いに新たな出会いをしたということではないでしょうか。学生さんが大切な人たちと新たな良い出会いをするために、私たちは、ささやかながらお手伝いをしたいと考えております。

【学年担当アドバイザー一覧】

総括責任者：大塚公一郎

担当学年	教 員 名
1年生	☆里光やよい准教授、野崎章子講師、和久紀子助教
2年次	☆齋藤良子准教授、宇城令講師、池下麻美助教
3年次	☆鈴木久美子准教授、崎田マユミ講師、段ノ上秀雄助教
4年次	☆井上映子准教授、工藤奈織美講師、川上勝講師

☆印は責任者を示す



看護学部1年 長谷川 結美

【看護学部教員一覧】

＜教授＞

氏名	学科目	各委員会委員長
水戸美津子 (学部長)	老年看護学 基礎看護学	
春山 早苗	地域看護学	教 務 委 員 会
竹田津文俊	医学関連	学 生 委 員 会
中村 美鈴	成人看護学	F D 評 価 実 施 委 員 会
成田 伸	母性看護学	広 報 委 員 会
本田 芳香	がん看護学	編 集 委 員 会
渡邊 亮一	基礎科学関連	国 家 試 験 対 策 委 員 会
永井 優子	精神看護学	臨 床 実 習 指 導 研 修 委 員 会
半澤 節子	精神看護学	研 究 推 進 委 員 会
中島登美子	小児看護学	実 習 調 整 委 員 会
竹田 俊明	医学関連	

＜准教授＞

井上 映子
大塚公一郎
大脇 淳子
小原 泉
齋藤 良子
里光やよい
鈴木久美子
高木 初子

＜講 師＞

宇城 令
内海 香子
小川 朋子
川上 勝
工藤奈織美
崎田マユミ
櫻井 美奈
角川 志穂
塚本 友栄
野崎 章子
樋貝 繁香

＜助 教＞

池下 麻美
石田 寿子
板橋 直人
北村 露輝
島田 裕子
段ノ上秀雄
長井 栄子
西岡 啓子
松浦利江子
宮田真理子
和久 紀子



看護学部1年
渡辺 愛理



看護学部1年
大塚 歩美



看護学部1年
菅野 梨佳



看護学部1年
長谷川 結美

平成21年度学校法人自治医科大学決算等の状況について

5月28日に開催された理事会及び評議員会（東京・都道府県会館）で、平成21年度学校法人自治医科大学決算及び事業報告が承認されました。決算の概要並びに看護学部の平成21年度事業概要報告は次のとおりです。

1 平成21年度学校法人自治医科大学決算の概要について

- ・資金収支決算（別図1）
- ・消費収支決算（別図2）
- ・資産・負債等の状況（別図3）

2 平成21年度事業の概要について

看護学部は、医学の進歩、高齢化社会の到来、国民の健康意識の多様化等、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に伴い、高度化・専門化が進む看護分野に対応できる看護職を育成するため、平成21年度、次の取組みを実施し、教育・研究の質的向上を図りました。

① 学生教育に関すること

- ・学生オリエンテーション、履修ガイダンス、カリキュラム説明会を実施し、新旧カリキュラムが並行して円滑に運用できるよう努めました。また、1、2年生を対象に実施したアンケート調査で明らかとなった新カリキュラム履修に関わる課題の対策等について検討を行いました。
- ・臨床実習指導研修会等を通じて、学習指導方法や学生支援方法等について検討を行い、看護職に求められる知識・技術が確実に習得できるよう実習教育の充実に努めました。
- ・FD（教員の教育能力開発）評価実施委員会において授業研究会を開催し、教育内容・教育方法の改善、新規開講科目の内容検討、教員の教育能力の向上を図りました。今後、学生による授業評価の実施方法等について検討を行うこととしています。

② 国家試験対策に関すること

4年生を対象とした国家試験ガイダンス、国家試験対策ゼミの開催、模擬試験、個別の学習相談を実施しました。また、3年生に対する、国家試験ガイダンスや模擬試験を実施する等、国家試験対策の強化を図りました。このような取組みの結果、看護師、保健師の各国家試験の合格率は全国平均を上回ることが出来ました。今後さらに合格率の向上が図れるよう取組みを強化することとしています。

③ 学生の受入れに関すること

- ・オープンキャンパス、進学説明会、高等学校における模擬授業等を通じて、本学部のアドミッションポリシー（本看護学部の求める学生像と学生受入れの基本方針）や特徴等を広報することにより、看護を学ぶ高い学習意欲を持つ学生の確保に努めました。
- ・入学生に対するオリエンテーションや学部長懇談会、学年担当アドバイザーとの面談等を通じて、教育理念や教育目標を良く理解させ、学習意欲の向上に努めました。

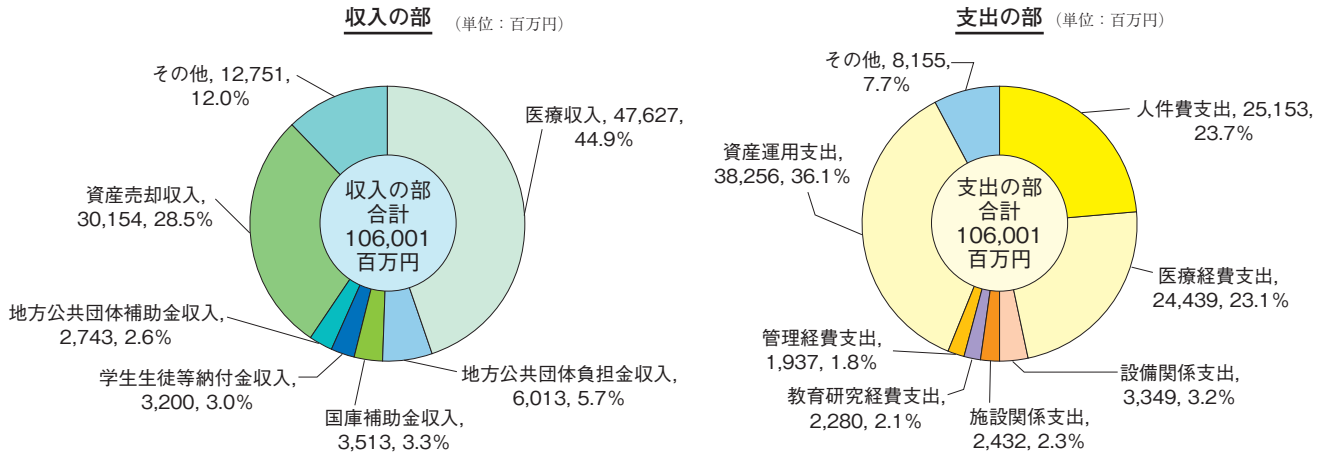
④ 学生の支援に関すること

- ・学生委員会、学年担当アドバイザー、カウンセラーが連携し、学生の健康や生活状況を月例報告書で把握しながら、適切な指導や支援を行いました。
- ・本学独自の奨学金貸与制度に加えて、新たに今年度から、学業成績が優秀であるが経済的理由により授業料等の納入が困難な学生に対し、その全部もしくは一部を免除し、または徴収を猶予する制度を設け、学生生活の安定と学業継続のための経済支援を行いました。

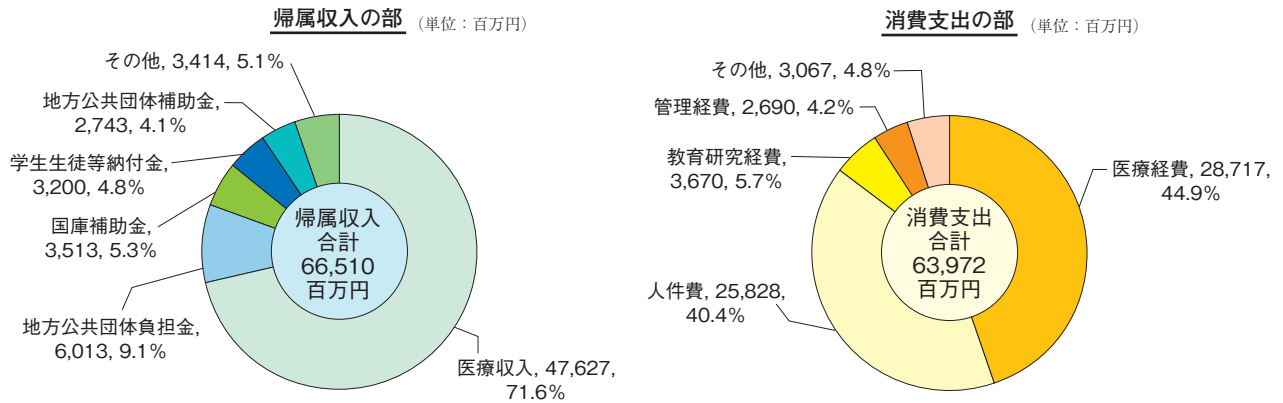
⑤ 研究に関すること

研究費や研究時間の確保等、研究環境の改善に努め、附属病院看護部との連携を図りながら、共同研究を推進しました。この共同研究の成果を報告書にまとめ、看護ジャーナル第6巻（2008）自治医科大学看護学ジャーナル第7巻（2009）を発刊しました。

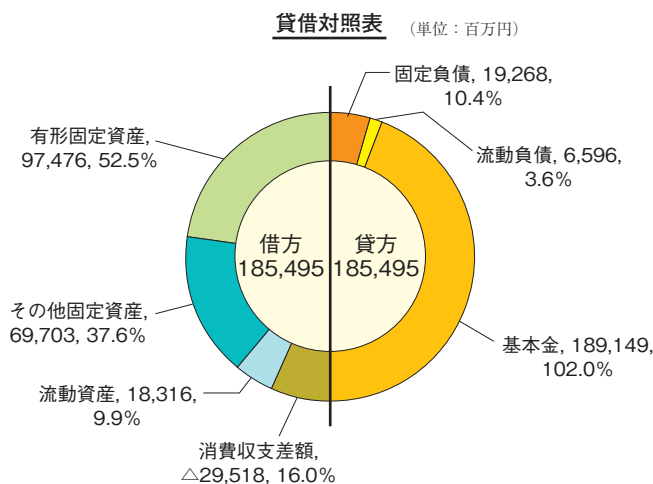
別図1 平成21年度学校法人自治医科大学資金収支決算



別図2 平成21年度学校法人自治医科大学消費収支決算



別図3 平成21年度学校法人自治医科大学資産・負債等の状況



※財務状況等の詳細は大学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp>の「情報公開」でご覧になれます。

編集後記

保護者の皆様に学生生活を中心に、卒業生の状況や大学の財務状況までわかりやすく、幅広く充実した情報をお伝えしようと努めました。皆様のご意見やご希望を今後の編集に活かしたいと思います。(永)

ビタミンN 第7号

発行日 平成22年7月9日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

TEL 0285-58-7409 (看護総務課)